

登別駅前広場の整備

■現状と課題

JR登別駅は、日本有数の温泉地である登別温泉の玄関口ではありますが、登別駅前広場では鉄道とバスの乗り換えを行う一般の駅利用者のほか観光客の増加により、自転車、自家用車、バス・タクシーなどの交通が輻輳し、交通結節点としての機能が低下している状況にあります。

このような中、2020年度に、当地区に独立行政法人地域医療機能推進機構（JCHO登別病院）の移転開院、白老町における民族共生象徴空間（ウポポイ）の開設、さらに、2021年に東京オリンピック・パラリンピックの開催が予定されているほか、2022年度には本市において駅前広場に隣接し、アイヌ文化や観光情報などを提供する情報発信拠点施設を建設する予定であり、駅利用者の更なる増加が見込まれるところです。

また、駅利用者の利便性向上に向け駅舎のバリアフリー化についてJR北海道と連携して取り組む方向で協議しているところです。

これらのことから、交通結節点である駅前広場の安全性・利便性を確保し、福祉に優しくにぎわいある駅前広場の整備が必要であります。

当初	登別駅前交通広場	約3,400㎡	昭和47年10月21日都市計画決定
変更	登別駅前広場	約3,500㎡	令和2年8月14日都市計画変更

■要望内容

- 交通結節点機能の向上を図り、登別温泉の玄関口としてふさわしい登別駅前広場の整備。



観光客とバス・タクシーで溢れかえる駅前広場



人と自動車が輻輳し機能低下している駅前広場



■事業効果

- 登別温泉等へのアクセスの向上
- 観光振興の強化
- 地域活性化
- 歩行者、自転車、自家用車、バス、タクシーなどの交通の安全確保と利便性の向上